

2018年度学位授与式学長式辞

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。ご父母の皆様におかれましてもお慶びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

本日、経済学部、理工学部、文学部、法学部の4学部、および経済経営研究科、理工学研究科、文学研究科、法学政治学研究科、法務研究科の5研究科のすべてを合計して1800名余りの卒業生、修了生の皆様を、平成最後の学位授与式にお迎えできたことは、誠に喜ばしい限りです。

今日ここに集まれた1800名余りの皆さんは、この学位授与式を終えられた後、民間企業や公務員、教員、研究者などそれぞれの道に足を踏み入れていくことと思います。希望や不安を胸に、緊張感をもって本日の旅立ちの日を迎えられていることと思います。

さて、これから皆さんが足を踏み入れていく社会はどのようなものでしょうか。これからの社会はよく「ソサエティ5.0」という言葉で表されることがあります。人間が生活の糧を得る生産形態が、文明の進歩と共に、狩猟社会、農耕社会、工業化社会、情報化社会と変化し、さらにその先にある社会という意味を込めて「5.0」という言葉を使っています。超スマート社会と呼ばれることもあります。人類の文明史の中のまったく新しいステージに向かおうとしている時代の転換点であり、皆さんはまさにその渦巻く激流の中に船出していくこととなります。このソサエティ5.0を牽引しているのは、IoTと呼ばれるモノのインターネット化やビッグデータ解析、AIと総称される人工知能関連技術、ロボティクス、などのスマートテクノロジーにほかなりません。

さて、よくAIやロボットに仕事を奪われるということを耳にしますが、これはどういう意味でしょうか。この問題について少し考えてみましょう。近年、AI関連技術の中心をなしているのはディープラーニングと呼ばれる技術です。これは大雑把にいうと、大量のデータから特徴的なもの、特徴量を見つけ出す技術です。例えば、何百万枚という内臓の画像から癌の病変を見つけ出したり、気象条件や交通量、イベントなどの大量の情報から、最もお客さんと遭遇しやすいタクシーの走行ルートなどを見つけたりします。画像診断士やタクシードライバーが長い年月の経験の積み重ねによって鍛えあげてきたスキルを、AIは一瞬で習得してしまいます。したがって全くの素人でもAIを使いこなささえすれば、画像診断やタクシーの最適走行ができるようになります。このことは何を意味するのでしょうか。画像診断士やタクシードライバーが何十年もかけて培ったスキルの経済的価値が一瞬にしてゼロになってしまうということです。画像診断士という職業は画像診断というスキルと1対1に結びついていますから、職業として消滅することになります。一方、タクシードライバーは

最適走行ルートを選択以外のスキル、例えば「おもてなし」などの別の働き方に価値を置く必要がでてきます。つまり職業がなくなるわけではありませんが、仕事のやり方を変えなければならない状況に直面するということになります。

それでは、このようなソサエティ5.0を生き抜いていくためには、どんな力が必要でしょうか。結論から言うと、3プラス1の力が求められることになります。順を追ってお話していきます。第一番目の力は総合的思考力です。先ほどの例からわかるように、デジタルデータとして蓄積されるようなタイプの知識やスキルでは、人間はコンピュータに到底太刀打ちすることはできません。しかし、人間が多くの経験を積み重ねながら生きていくとき、デジタルデータとしては保存できないタイプの知識が蓄積されていきます。これらはしばしば「暗黙知」と呼ばれます。それらを総合的に組み合わせることによって、何が人間にとってよいのか、何が社会にとって望ましいのかを判断しようとします。このような判断は、良識とか見識などと呼ばれるものです。この良識や見識を生み出す総合的な思考こそが、そう簡単にAIに代替されない人間の能力なのです。

二つ目の力は、創造的思考力です。AI 関連技術は大規模なデータがないところでは信頼できる結果を返してくれません。しかし人間はデータがわずかしかない状況でも、そのスモールデータを使って、ひらめきを得たり、深い洞察を行うことができます。このような創造的思考はそう簡単にAIでは真似のできないものだと思います。

三つ目の力は、真のコミュニケーション力です。コミュニケーションの本質は意志や感情をキャッチボールすることですが、意志や感情をもたないAIには真の意味でのコミュニケーションは行えません。したがって「おもてなし」のようなコミュニケーションが本質を成す仕事は人間の手の手の中に残されると思います。

これまで、総合的思考、創造的思考、真のコミュニケーションの3つの力が大切であることを述べてきました。しかし、総合力や創造性を一人の人間が高いレベルで達成することは容易ではありません。これからのソサエティ5.0では、人間はチームを組んで、高いレベルの総合力や創造性を発揮し、人間にしかできない領域を開拓していくことになると思います。最後の一つはチームで働く力ということになりそうですが、実はそうではありません。

ここで、強いチームをつくるにはどのような人材が必要かを考えてみましょう。皆さんは幼少の頃から、テレビのスーパー戦隊や超能力者チームが活躍する映画やアニメを見たことがあるかと思います。あるいはドラゴンクエストやファイナルファンタジーなどのキャラクターがチームを組んで敵と戦うロールプレイングゲームを行ったことがある人も多いと思います。それらに象徴されるよう

な強いチームとはどのようなチームだったでしょうか。様々な分野の能力に秀でた人が集まっているチームではなかったでしょうか。つまり異なる分野で圧倒的な能力やスキルを持つ人を集めると、非常に強いチームが出来上がり高い成果を上げることができるわけです。

おわかりでしょうか。つまり3プラス1の最後の一つは、チームのメンバーに選ばれる力です。特定の分野で圧倒的なスキルを持った人、突き抜けた個性を持った人は、強いチームを創るために不可欠な存在になります。成蹊学園は 100 年以上にわたって「個性の尊重」を掲げて教育を続けてきました。今まさに成蹊教育の真髄が輝きを放つ時代が来たという感を強く持っています。

皆さん、ぜひこれからソサエティ5.0を生き抜いていくために、自らの個性を磨き続け、自分の得意なところを伸ばし、誰にも負けない領域を創ってほしいと思います。

最後に、皆さんの旅立ちを見送るにあたり、私から皆さんに「誇り」という言葉を送りたいと思います。皆さんが成蹊大学で過ごした年月が皆さんの心の中に残したものを信じてください。大学生活の中で苦しかったことや辛かったこともあると思います。友達と一緒に大声で笑ったり泣いたりしたこともあると思います。皆さんが成蹊大学のキャンパスで学び、経験した一つひとつは、皆さんの心の中に確実に刻まれ、皆さんがこれから生きていくうえで大きな財産になるはずです。皆さんがこれから足を踏み入れる社会にどんな苦難が待っていようと、皆さんが懸命に学び過ごした大学での年月は決して皆さんを裏切らないと思います。成蹊大学を卒業したという誇りと自信をもって生きて行ってください。

ここまでソサエティ5.0を生き抜くための3プラス1の力、そして「誇り」という言葉を皆さんにお伝えしました。ぜひこれらの言葉を心にしまっ、堂々と胸を張って成蹊大学の正門から社会に向けて旅立ってください。いつの日か個性輝く社会人として大きく成長した皆さんに、再びお目にかかることを心から楽しみにして、私から皆さんへの「贈る言葉」を終えたいと思います。

本日はご卒業本当におめでとうございます。また会いましょう。

2019年 3月19日

成蹊大学長 北川 浩